特集に当って

小笠原　暁

地域計画策定というタイトルで特集を編集するに当って，まず最初に断っておきたいことは，地域計画策定については企業の経営計画策定とは異なった事情が介在するということである．

企業の計画策定においてマーケットあるいは顧客が直接的に計画策定過程に参入することはきわめて少ないのであるが，地域計画策定に関しては，関係地域住民がその過程において，計画原案の修正を求めたり，提案を行なったりという形で参加することが一般である．

現実の問題として，住民の要求は今日的な問題の解決に関するものが多いが，計画当局はこのような要求を計画の中に採り入れながら，同時に長期的視野に立って，おこりうる将来の事態を予測し，それに対する施策をも計画の中に織り込んでゆかねばならない．そして，なぜこのような計画原案を策定したかを関連する行政組織の各分野に対すると同時に住民に対しても説明し説得できなければならない．したがって，そのためのモデルおよびプレゼンテーションが大きな意味をもつ．

この他に地域計画策定支援にとって大事なことは，計画のためのデータをどのように構成するかということである．一般に地域計画のための基礎データは最小行政単位ごとに収集され蓄積されているが，行政区画の条件の相違等から，それをそのまま計画策定に使用することは必ずしも適当ではない．すなわち，基礎データを適宜集約・加工した計画用データ・ベースを構成しなければならない．

鈴木胖教授に執筆をお願いした「近畿地域社会経済シミュレーション・モデル」は，いくつかのビッグ・プロジェクトをかかえる近畿2府5県の広域圏の計画策定支援システムの概要であり，計画データ・ベース，計画モデルという観点からお読みいただきたい．

江口氏の「兵庫県の地理情報システム」は，地域住民をも含めた計画策定に参画する人々の直観的思考を刺激し，より深みのある計画策定を支援する行政イメージ情報システムの機能を中心に説明するものである．プレゼンテーションという視点から読まれることを期待したい．

本荘氏の「計画策定支援のための情報システム」は，既成市街地のみならず新市街地開発プロジェクトを擁し，さらに‘グレーター・コーベ’という形で周辺の市町でも大きな影響力をもつ神戸市の総合計画策定支援システムを，モデルを中心として展開したものである．

以上に挙げた3者のように各地域で行なわれているシステム開発を統合し総合化することによって地域計画支援システム・ジェネレータと呼べるようなものが開発されていくことを望みたい．

衣笠氏による「西播磨テクノポリス計画の建設プログラム」は以上の3者とは異なり，西播磨テクノポリスという産業・研究開発・住環境の3つの機能をあわせもった新都市開発計画を策定するに当って，その目的，目的達成のための施策の展開，さらに開発のステージ・プランをとりあげたものである．各地でも展開されているさまざまの地域プロジェクト（テクノポリス，ニューメディア・コミュニティ，テレポート等）の1つのプロト・タイプとして読んでいただきたい．

おがさわら　さとる　芦屋大学
〒659　芦屋市六麓荘町13—22

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．